



会津農林事務所農業振興普及部だより

Vol. 260(平成28年8月15日発行)

編集・発行 ■ 会津農林事務所農業振興普及部
住 所 ■ 〒963-8501

会津若松市追手町7-5

H P ■ www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36240 a /

農業振興課 0242-29-5303

地域農業推進課 29-5306

経営支援課 29-5307

有機農業担当 29-5317

平成28年6月7日(火)、平成27年度豊かなむらづくり顕彰事業優秀団体表彰を受賞した、会津よつば農業協同組合北会津銘柄米生産部会(以下、部会)の受賞祝賀会が、会津若松市内で開催されました。当日は、部会員をはじめ、福島民友新聞社・会津若松市役所・県会津農林事務所など、約60名の出席者が部会のこれ



提供：福島民友新聞社

平成27年度豊かなむらづくり顕彰事業
受賞祝賀会が開催されました!!
(北会津銘柄米生産部会)

までの取組と受賞を称えました。

部会は、昭和62年の設立以降、地域一丸となって、米の品質改善と銘柄米産地の確立に取り組んできました。

実証展示ほの設置や現地講習会を実施するなど、技術改善に努めた結果、高品質米の生産技術を確立したこと、さらに、特別栽培米「ホタルの舞う里」をブランド米として差別化を図り、関西や九州にも販売活動を行うなど、会津米の知名度向上に大きく貢献してきたことが、高く評価されました。

部会長の奈良橋涉さんより、更なる部会発展を目指していくとの、力強い挨拶がありました。部会の今後一層の活躍が期待されます。



6月9日(木)、会津若松市北会津町の「(有)すとう農産」の水田に、地元のごども園「北会津こどもの村幼稚園」の園児が、アイガモを放鳥しました。同社の須藤健氏、亜貴氏兄妹より、「アイガモが害虫や雑草を食べ、稲が元気に育つ手伝いをしていく」というお話しの後、園児たちは生後2ヶ月のひなを1羽ずつ受け取り、水面に放していました。

受け取るとすぐに放してしまいう子、大事そうに水際まで運んでいき、そっと水面に浮かべてあげる子、自分が放したアイガモをずっと指をさしたまま、しばらく目で追いかける子、それぞれに放鳥を楽しんでいました。当日は、約50羽を放鳥しましたが、園児たちは、群れになって水田を動き回るアイガモの姿を笑顔で見つめていました。

アイガモパトロール隊に、かわいい歓声!!
園児たちが、水田にアイガモを放鳥しました!!

高校生による風評払拭に向けた海外プレゼンテーション 会津高校の取り組みから

県立会津高等学校では、「未来と復興を担うグローバルリーダー育成事業」として、福島県の「現状と復興」「地域活性化」の分野から、高校生が自ら選択した課題に対してグループ研究・発表を行う活動を進めています。

このうち、3グループが海外研修班として、平成28年3月にアメリカ・ボストンにおいて英語によるプレゼンテーションを行いました。その中に「米の全量全袋検査」を内容に盛り込み、発表したグループがあります。

テーマは『RECOVER
〜復興〜』です。

発表は、大きく「①“ふくしま”が国内外の支援を受けて復興してきたこと」「②“ふくしま”の環境と食は今、安全であること」

「③震災発生時、日本人は規律正しく思いやりのある行動をとったこと」から構成され、このうち②の中で「米の全量全袋検査」を取り上げていますので、その部分を紹介しましょう！

『…風評も深刻です。以前と異なり、福島のお米を買い控える方もいます。しかし、福島のお米や野菜や果物などは、全て安全なのです。さて、ここで問題です。福島県産米のうち、放射性物質検査が行われている割合はどれくらいでしょうか？ 30%？ 50%？ どなたかご存知ですか？ 答えは…そう100%です！ 検査に合格すると、このステッカーが米袋に貼り付けられます。』

2014年産からずっと、基準値を超過したお米はありません。放射線の自然減だけでなく、放射性物質の吸収抑制対策など、農家の皆さんの努力が背景にあるのです。

現在もこれから先も、福島県の全体的にお米は安全なのです。』

次に、発表した高校生からのコメントです。

『アメリカでのプレゼンテーションで、支援への感謝を伝えることが出来ました。』

また、福島の農作物の美味しさと安全性を発信する大切さを学ぶ、良

い機会となりました。今後も福島の本物の姿を調べ続けたいと思います。』
根本 千聡、緑川 萌々、黒澤 早姫、今井 彩花

海外で堂々と発表した会津地方の若者達、頼もしいですね。今年も米の全量全袋検査やモニタリング検査にしっかりと取り組みましょう！



穀物のモニタリング について

7月13日に、平成28年度会津地方畑作物（穀類）のモニタリング検査担当者会議を開催したところですが、今年度の検査については、次のとおりです。

①会津地方の検査対象地域は市町村単位（27年度は旧市町村単位）

②調査対象品目は、大豆、そば（夏そば・秋そば）、麦類（小麦・二条大麦・六条大麦、はだか麦・ライ麦）、小豆、雑穀（ダツタンソバ・アワ・キビ・ヒエ・ハトムギ・アマランサス・食用ソルガム）です。

③大豆は市町村あたり3点、それ以外の品目は1点です。

④モニタリング結果が公表されてから出荷してください。

⑤結果の公表は原則として火曜日に行われます。

お問合せは、農林事務所まで！

米の品質向上対策について

平成25年度から会津農林事務所が重点課題としている「米の品質向上対策」は、今年で4年目を迎えます。平成25年度以降、関係機関・団体との連携を図りながら、一等米比率95%以上を確保し、穀物検定協会が公表する米食味ランキングでも「特A」ランクを維持しています。

昨年は、8月中旬以降の日照不足や中山間地の低温等による米の品質への影響が懸念されましたが、大幅な一等米比率の低下にも至らず、無事に収穫を迎えることができました。



本年も、関係機関・団体と連携しながら稲作の技術情報の編集会議をすでに4回開催し、銘柄米生産情報を発行しています。

また、JAの若手営農指導員を対象とした、資質向上に向けた研修会等の活動も継続しています。

これからも、水稻の生育状況や気象変動に対応した水田の管理対策を徹底して、一等米比率95%以上と米食味ランキング「特A」の維持を目指します。

平成28年度第2回おたねにんじん栽培研修会 〜伝統の栽培技術を守れ!!〜

会津地方おたねにんじん推進協議会は、7月29日に会津人蔘栽培研究会と共催で、栽培指導員による「第2回おたねにんじん栽培技術研修会」を開催しました。研究会メンバーと行政機関の総勢50名近くが集まり、新規作付ほ場や今年度作付予定ほ場など4カ所を回り、「夏期管理以降の栽培管理と土づくり」について学びました。

指導員の菊地要一氏は「オタネニンジン」は簡単にできる作物ではありません。重要なのは『根づくり』です。土づくりが最も大切です。膨軟でかつ排水の良い土を作るには、

植え付ける年に土づくりを開始したのでは、間に合いません。また、化学肥料のみでの栽培法では、オタネニンジンの生産はできませんから、本場に栽培が難しい。逆にこの土づくりに成功すれば、何にでも応用できるはずですよ。」と語り、集まった生産者らは、35度を超す炎天下のもと、熱心に菊地指導員の話に耳を傾けていました。

かつて、オタネニンジンに困窮していた会津藩の財政を支えた重要な

輸出品であり、約四百年以上の長い年月を経て現在の栽培法が確立されてきました。

生産量は、円高の影響等により、平成5年頃をピークに減少し、平成24年には、長らくオタネニンジンの生産や販売を支えてきた会津人蔘農業協同組合が解散となりました。その後、漢方薬や地域特産品としての需要が高まり、清水薬草有限会社を中心に会津人蔘栽培研究会が設立され、おたねにんじん推進協議会との共催による年4回の研修会等を実施しながら現在に至っています。

「現代の農法で必死に進めようとする私達に対して、土づくりの重要性を改めて教えてくれている貴重な作物なのかもしれない。」

研究会会長の五十嵐幸男氏の言葉がとても印象的でした。



クマ出没多発!!

今年クマの目撃情報が例年より多く報告されています。クマは夜行性ではありません。

早朝や夕暮れ時、林縁部や川（沢）沿い、降雨や霧が発生している時は、出没する可能性が高まります。山間地での作業や入山などには、特にご注意ください。

◎鈴やラジオなど音の出るものを身につけ、クマに存在を知らせましょう。

◎クマに遭わない、寄せつけないために、家のまわりや農地周辺に生ごみなどを捨てたり、置いたりせず、埋設するなど適正に処分してください。

◎目撃した場合や痕跡を見つけた場合は、直ちに市役所・町村役場または警察署に連絡しましょう。

電気柵は正しい設置と適切な管理を!!

6月以降は、山林の食べ物が少なくなるため、野生鳥獣による夏野菜の被害が増加します。ジャガイモやトウモロコシの他、スイカなどの果菜類は特に注意が必要です。

これまで被害にあっている場合やほ場周辺に野生鳥獣の痕跡が見られる時は、早めに周辺やぶの刈払いや電気柵などの設置を進めましょう。

◎電気柵の設置ポイント

電気柵は、正しく設置し適切に管理しなければ、十分な効果が期待できません。

①地面からの高さは、クマは20cm間隔で3段、イノシシは20cm間隔で2段です。ハクビシン等の中型動物は10cm間隔で3段張り、柵の内側に支柱を利用しネットを設置すると、飛び込みなどの侵入が少なくなり被害がより軽減できます。

②電圧が重要です

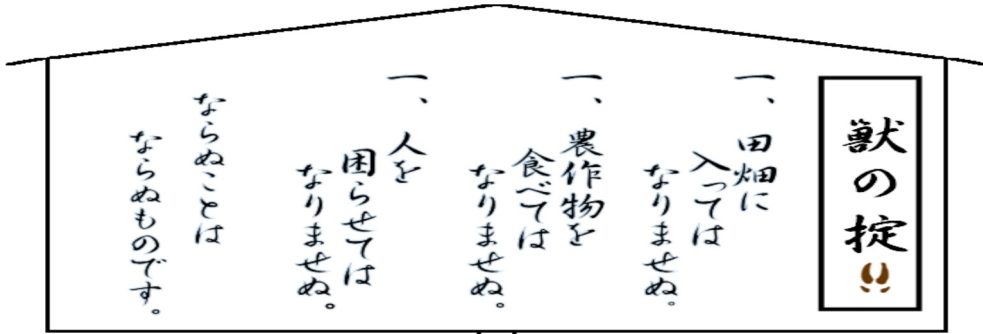
(5000V程度)。
漏電などで電圧が下がっていないかこまめに確認しましょう。

③地際は重点的に管理しましょう。

窪みなどは動物が潜り込めるので、金網で防ぐなど万全にしましょう。

④草刈りなどの維持管理は必須です。

管理できる距離で設置しましょう。



ふくしま農業女子ネットワークメンバー募集 〜農業女子の魅力を伝えませんか〜

県内で活躍している女性農業者同士の交流、資質向上、企業等との連携を目的として、7月に「ふくしま農業女子ネットワーク」を設立します。

農業への取組を広く発信し、自らの経営や地域等との連携をより発展させたいという女性農業者、農業に興味のある女子高校生や大学生及び県内での就農を検討している方を対象に、メンバーを募集しています。

ネットワーク設立に合わせ、意見交換会「農業女子会」を7月に開催する他、資質向上を目的とした研修やセミナー（11月、1月開催予定）を開催します。また、FacebookやHP等を活用した外部への情報発信を行います。

自らの資質向上に加え、女性農業者の取組を発信することで農業の魅力を伝え、就農者を増やすきっかけとなる活動です。ご興味のある方は、農業振興普及部地域農業推進課までお問い合わせください。

申込書は、福島県農業担い手課ホームページにも掲載しています（左記アドレス）。

(<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021e/nougyoujoshi-network-bosyuu.html>)

